

1、はじめに

東京に住んでいる眼からすると、山梨の現在の状況には歯がゆいものがあります。甲府のまちはシャッター街だし、歩いている人も少ないわけです。山梨の他の市や集落を通りがかっても何とも元気がありません。おい、大丈夫かという感じです。

2、鶴岡・山中大介・ヤマガタデザイン

先日、私は山形県の鶴岡市に行ってきました。ここは庄内平野の真ん中にあり、庄内空港からアクセスするしかないようなところ。山形県は人口は112万人、鶴岡市は人口13万人です。山梨県と甲府市に少し似ています。当然、過疎化が進んでいるわけですが、ここで今、日本中が注目することが起きております。「サイエンスパーク」ってみんなが呼んでいるプロジェクトです。

3、山梨の「観光」について考える

観光客が山梨に長期間滞在しない最大の理由は、観光地同士が連携しあえていないことです。富士山に来た人が武田神社や恵林寺に寄る。北杜に来た人が甲府でコンサートを聞いたり、食事をする。そういうように次に行く場所を紹介しあうシステムになっていません。

山梨の観光地同士が連携しあえない理由もいくつかありますが、その最大の原因は、甲府盆地が真空地帯になっているせいだと思います。全体を繋ぐべき中央のゾーンに魅力がありません。その為に山梨県内の各パーツが孤立してしまっているわけです。このエリアはもうちょっと頑張って、甲府だけでなく甲府盆地内の市町村が一緒になって、これ自体が観光の目玉となり、求心力を増す必要があると私は考えます。



4、山梨観光の質を変える。

大きなポイントは「観光」の質を変えるべきだという話をしたいと思います。今の山梨の観光は一過性のもので持続性がない。もっと持続性を持ったものに切り替えていくべきだということです。

皆さんは観光というと「見たこともないものを見ること」だと思っていると思いますがこれが実は思い違いなのです。

観光というと物珍しいものを見にくる。そしてそれを体験できれば、すぐ帰ってしまうのは仕方がない、という感覚です。これは観光という点では、まだアマチュアの域にいるということです。

5、山梨セントラルエリアを充実させる

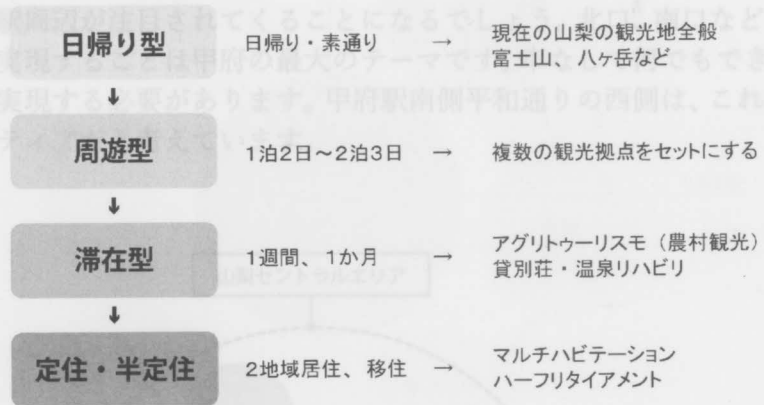
落ち着いて山梨を見てもらうように、すると第2段階では、そのうちハイキングや山登り、温泉、農村観光など、もっとニッチないい所も分かってきます。滞在型に切り替わっていくのです。

この段階では、私は是非、先程申し上げた「農村観光」というのを仕込んで欲しいのです。EUの人は2週間とか1ヶ月農村に滞在するのです。中国人や韓国人、日本人だっていずれそういう人は増えると思います。

第3段階では、この滞在している人たちが、やがて山梨の面白さに気づくようになります。山登りしながら仕事もやれる。仕事さえ見つければ、喘息の子供の子育てにも最適だと分かってきます。移住したり、またそこまでしなくても例えば1年のうち1/3くらいは山梨に生活をした、と思うようになるというわけです。

1番目の核は当然、甲府市街地です。

これからは甲府市街地を中心として、甲府市街地から甲府駅南側平和通りの西側は、これから整備していくべきフロントエリアがあります。



5、メリハリのある住宅地をつくる・・・コンパクトシティと山梨生活できる戸建住宅地

ある一定地域に都市的な生活地域と戸建地域を両方つくっていくことが重要なのです。都市的な生活地域というのは「ほとんどすべてのことが車を使わないで済ませられること」に尽きます。住んでいるところから徒歩で買い物ができ、病院に行き、役所も行ける。仕事をすることもできるし、教育を受けることができる。そういう意味ではコンパクトシティを甲府やその他で、ある程度集約してつくっていく必要があるのです。

戸建住宅地の方は日本中どこにでもあるようなものを脱却して、私は山梨ならではの生活が実現できるようなものをつくり出していったらどうかと考えています。

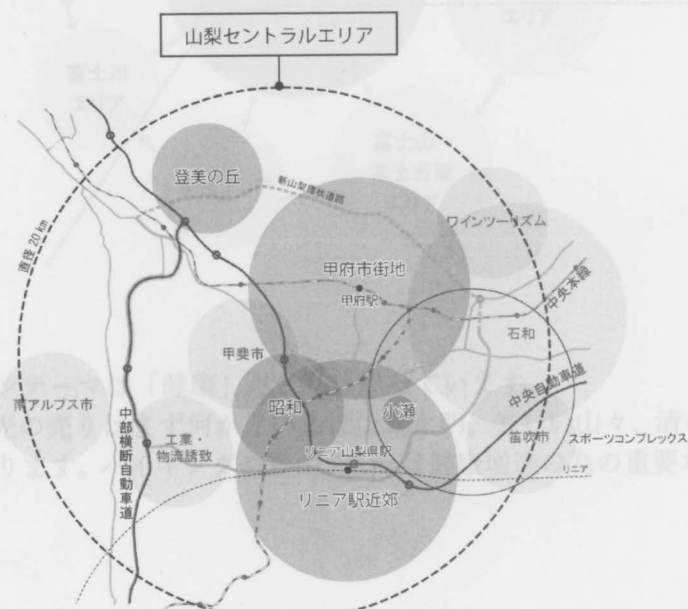
6、山梨セントラルエリアを充実させる

私はここに日本中の、世界中のモデルとなるような健康をテーマとする環境都市をつくったら良いと思っています。良い職場、良い教育環境などが不可欠です。また若い人たちには遊び場も必要です。大学や交流施設などもすべて個々にバラバラで魅力が乏しいだけでなく、分散して散らばっている為に相乗効果もありません。これらはある程度集中し、そして、そういうものが一体となって、幸せな山梨生活を送っている様子を観光で見に来ていただけるようなまちをつくることです。

きっかけの1つとして、2027年に予定されるリニアの新駅ができることを起爆剤にすべきです。健康をテーマとするコンベンションとインキュベーションのクラスターシティを先ほどの20km圏山梨セントラルエリアにつくると良いと思います。

1番目の核は当然、旧甲府市街地です。

これからは甲府駅周辺が注目されてくることになるでしょう。北口、南口などを中心にコンパクトシティを実現することは甲府の最大のテーマです。車なしで何でもできるまち、歩いて楽しいまちを実現する必要があります。甲府駅南側平和通りの西側は、これから整備していくべきフロンティアだと考えています。



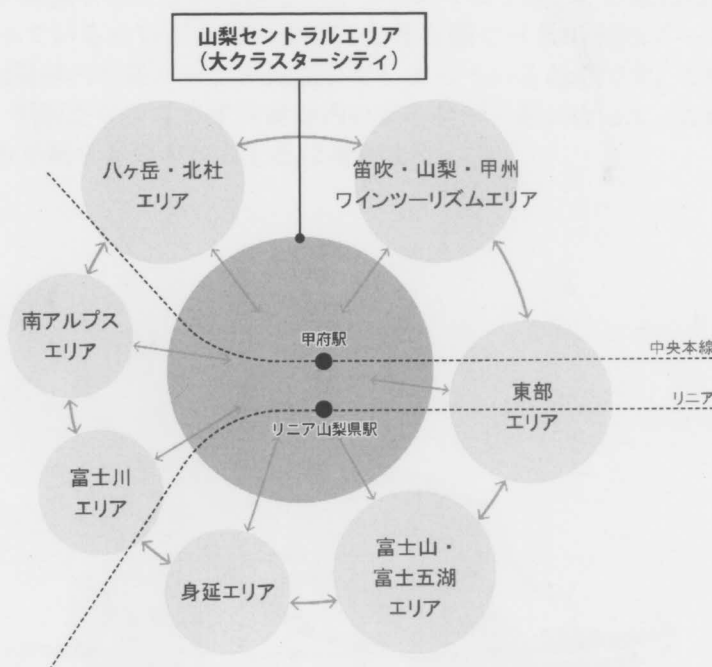
2 番目の核は山梨生活の楽しめる住宅地です。かせません。身体にやさしい食べ物、野菜や果
昭和や登美の丘の住宅地は勿論、他の周辺住宅地もブラッシュアップして、環境に優しい山
梨生活を世界に発信できるような住宅地にしていくと良いと思います。プレックスもその一
翼を担います。これに産学協働した健康産業のインキュベーションが加われば、大「健康県」

3 番目の核として提案したいのは、小瀬を中心とするスポーツコンプレックスです。
ヴァンフォーレの本拠地サッカースタジアムができるのは、非常に大きなインパクトがあ
ります。できるだけ多目的に使えるようなものにすべきでしょう。

最後に 4 番目の核は、まだ位置が確定していないようですが、新しくできるリニア新駅近
郊です。ここにはインキュベーションとコンベンションのまちをつくり上げるべきではな
いかと考えています。この辺りには現在、工業団地も多いし、アイメッセ、山梨大医学部も
あります。こうした立地条件を生かし「インキュベーションとコンベンション」の核を磨き
上げていったら良いのではないかと思います。

7、オール山梨で売っていく

山梨セントラルエリアが充実すれば、山梨全体が繋がることとなります。これは観光から定
住へというテーマで繋がることとなります。また山梨全体を 1 つのモノとして、売って
いくことにも繋がってくるのです。



それらを貫くメインテーマは「健康」だと私は思っています。
思えば、山梨の観光の売りはまず何かといえば山紫水明。美しい山々、清らかな水、これら
は健康の象徴であります。ハイキングや登山、これは健康増進の為の重要なレクリエーショ

ンです。温泉は健康を取り戻すリハビリに欠かせません。身体にやさしい食べ物、野菜や果物、牛肉、豚肉、鶏肉などは勿論健康の源です。CO2削減し、公害のない環境は健康にやさしいといえるでしょう。山梨は健康長寿でも有名です。スポーツコンプレックスもその一翼を担います。これに産学協働した健康産業のインキュベーションが加われば、大「健康県」を標榜してもおかしくありません。